免震装置、越屋根、パーゴラ……
地震対策と木造の良さをミックス

西尾様：
2016年に熊本地震が起こった際、行政からの依頼で被災建築物の危険度を調べる応急危険度判定業務のために被災地を訪問しました。そこで倒壊した建物を見て、改めて地震の怖さを思い知りました。
その体験をきっかけに、無垢庵には「滑り免震」と呼ばれる装置を設置しました。家をジャッキで持ち上げて基礎部分を作り替えたのです。
今度のリノベーション工事で一番大きな工事になりました。
免震装置があれば、震度7の横揺れがきても倒壊の危険を防げます。
また、木塀と家の間のスペースは、地震の揺れ幅を考えてのものです。免振装置のことで当社に相談に来られた方を案内する際に見てもらえるよう採用しました。

ところで、屋根の上に小さな屋根があるのがわかりますね。あれは今回、新たに作った越屋根（こしやね）です。室内に囲炉裏があるので、煙や熱を排出するために作りました。もちろん木造です。それから入り口の前には、パーゴラと呼ばれる木材で組んだ棚があります。これも自分で作りました。
外壁が漆喰だったので無垢材を貼り付けることで全体のイメージを統一しました。
外壁に貼り付けた木材には、紫外線を受けて色が変化する自然素材の木材防護保持材を塗布しました。無垢材の色の変化を楽しみたかったので塗装するのはやめました。ところどころ、雨水がかかるところにシミができていますが、それも味わいのひとつだと思っています。

屋根の上には越屋根。入り口前にはパーゴラ

地震対策に、最新の免震装置を設置

独特の雰囲気のある室内。古き良き日本の家屋を連想させる

真ん中には大きな囲炉裏。
木製家具で雰囲気を統一

西尾様：
どうぞ、中へ入ってください。木造は、夏は涼しいものの、冬は寒いと思われがちですが、この家は漆喰壁なので断熱性が高いと感じています。

家の真ん中には大きな囲炉裏があります。一酸化炭素中毒の心配はないのかと聞かれることもありますが、まったく問題ありません。
天井を見上げると、外から見えた越屋根が、屋根を抜いて作られていることがわかると思います。越屋根は煙と熱を逃すためのもの。煙は部屋には充満しないで昇っていき、越屋根の排煙窓と換気扇から出て行ってしまいます。
この囲炉裏を囲みながら、知り合いや友達を呼んで、ワイワイお酒を飲むのは楽しいですよ。

できるだけ雰囲気を統一するために家具や収納も木製のものを使用しています。使わない家具を知り合いからもらうことも多く、再利用しています。
窓の外側に使われている木製建具は、以前の持ち主の時代からずっと使用しているものです。

リノベーション前の外観。
ブロック塀もかなり傷んでいる

素材はスギ。立派な県産材が家を支えている

木を知り尽くしている西尾様

自慢の囲炉裏で入れたお茶は格別。休日にはたくさんのお客様が訪れる

西尾様：
家が竣工してから今年で58年ですが、ここで使われている木材はおそらく60年以上経っていると思います。使われているスギの木は油分を多く含んでいるので何十年も持ちますよ。宮崎県は、スギの生産量が全国一。立派な木が育つ環境があるのだと思います。今日に至るまで、この家をしっかりと支えてくれているのですから。実はまだリノベーションの最中なのですが、リノベーションして古民家のような味わいのある雰囲気をまとうことができるのは、素材が木材だからだと思います。鉄骨ではこうはいかないと思います。外観も内装も趣がありとても気に入っています。木造建築を考えているお客様には、ここをモデルハウスとしてご案内します。この建物から感じ取ってくれるものがあると嬉しいですね。

株式会社 西尾組（宮崎県宮崎市） https://nishiogumi.co.jp/

連休には2300人もが訪れる、「木製アスレチック遊具」いっぱいの遊び場!!

株式会社 埼玉種畜牧場 SAIBOKU（埼玉県日高市）
株式会社 ザイエンス営業本部 景観エクステリア部

休日には多くの子どもたちで賑わう木製アスレチック遊具のある「サイボクの森」。埼玉種畜牧場の小川夏季様と、施工会社であるザイエンス千脇義一氏に話を聞きました。

食と健康がテーマの施設に、木のぬくもりを感じられる木製遊具で更なる集客を

埼玉種畜牧場の小川様（右）と、ザイエンス千脇氏（左）

小川様：
「埼玉種畜牧場は「SAIBOKU」の運営母体です。SAIBOKUのコンセプトは、<食と健康をテーマにした文化観光スポット>。敷地内には豚肉の加工工場からミートショップ、またレストランやキッチン&カフェテリア、野菜直売所、さらには天然温泉といった複数の施設を有しています。

遊具のある『サイボクの森』もそのひとつ。もともとこの場所は、パークゴルフや陶芸体験ができる場所だったのですが、工場新設にあたって取り壊しに。その後、SAIBOKUの方向性と照らし合わせ、子どもたちが安全に運動できる場所を目的として広場が生まれました。ここにあるアスレチック遊具やベンチは、すべて木製。小さなお子様から小学生まで、たくさんの方に利用いただいています」。

千脇氏：
「1922年に創業したザイエンスは、創業当初から一貫して木を使ったものづくりに関わり続けています。古くは鉄道の枕木や木製電柱に始まり、現在は住宅資材全般を製造しております。そして70年代からは景観資材も取り扱うようになり、商業施設から公園まで、木製施設を幅広く手がけてまいりました。

木の良さは、何よりも優しさやぬくもりです。アスレチック遊具には国産の杉材を使用しているのですが、SAIBOKU様がテーマとする『健康』と、またそれに付随する『身体的体験』が、『木のぬくもりや優しさを活かし、快適でゆとりある環境づくりを支援する』という私たちの方向性に一致し、今回のご縁に至ったのだと感じています」。

たくさんの子どもたちが利用するアスレチック遊具

千脇氏：
「お話をいただいた当初は、現在のように10種のアスレチック遊具を点在させるのではなく、真ん中に大きな遊具を置こうと提案していました。しかし広くスペースを使い遊具を点在させた方が、子どもたちが走り回って遊べるのではないかとサイボク様からご意見をいただきました。そこで広大な天然芝に、アスレチック遊具と全長約350メートルの遊歩道沿いにベンチも置き、親御さんが見守る中で子どもたちが走り回って遊べる空間を作りました」。

小川様：
「実際、本当に楽しそうに多くの子どもたちが遊び回っています。現在では、土曜日には700から800人、日曜日には1000人以上の方が訪れています。もちろん平日もたくさんの人がいらっしゃっています。連休になるとさらに増え、過去最高で約2300人の来場者がありました」。

千脇氏：
「遊具の状態を見ても、たくさんの子どもたちに遊んでもらっていることがわかります。多くの人に楽しんでいただいているのだなと思いますね。今後は点検や塗装、メンテナンスもご提案し、みなさんに末永く安心して使っていただければと思います」。

大きな滑り台。ここから、広場内の景色を一望することができる

塗装の状態から、子どもたちが
遊びまわっている様子がうかがえる

木材を使いやすくし、寿命を伸ばす。いくつもの工夫

木の中心より外側にある芯去り材。子どもの怪我を防ぐ細かな工夫

千脇氏：
「今回、遊具を作るにあたってのこだわりは、『芯去り材』と『芯持ち材』を使い分けたことです。木の芯をはずして製材したものが芯去り材。芯持ち材はその反対で、芯の部分を中心に製材したものを指しますが、子どもたちが触れる部分には芯去り材を使っています。

芯持ち材は使っているうちに芯に向かって割れが入ります。強度には影響はないのですが、割れにより発生するささくれに触って怪我をする可能性があります。そこで、ささくれが出にくい芯去り材を、子どもたちが握る箇所に使用しました。

また防腐処理も工夫のひとつ。無処理の杉材を屋外で使用すると3～5年で腐ってしまいますが、弊社の木材保存剤を注入することで寿命が約 3～4 倍になります。さらに撥水性のよい塗料を塗り木材の表面保護と見た目を明るくしました。
今回はそれだけでなく、柱へもう一工夫しています。

木材が一番腐りやすいのは地面と接する柱の地際部です。
その部位を直接地面と接しないよう金物で補強しました。この方法なら、柱が劣化して交換が必要になった時でも、ボルトを抜けば柱１本から交換できます。

それに加えて、地際の次に腐朽しやすい柱の頭頂部には鉄板を取り付け、雨水が染み込まないよう保護しました。これら金物のカラーは赤としました。メープル色がメインの木材に、SAIBOKUのイメージカラーである赤をアクセントに加えることで、SAIBOKU全体との統一感を図っています」。

地面のキワ（地際）と頭頂部には、
金物を設置し腐食を防ぐ